

テスト設計コンテスト U-30クラス – アピールシート

チームID	S260718002	チーム名	QDW
-------	------------	------	-----

チームの紹介

この項目ではチームやメンバーの紹介、チーム全体の基本コンセプトを記述します。

チーム紹介

私たちは、第三者検証会社で実務経験を積んできた若手エンジニア3名のチームです。各メンバーが異なる案件で得た知見を持ち寄ることで、多角的な視点からテスト設計を行える点が強みです。

チーム名の「QDW」は“Quality Design Work”の頭文字で、品質向上に直結するテスト設計を実践するという私たちの理念を表しています。本コンテストを通じて、スキルを磨き、理念を体現できるプロフェッショナルとして成長することを目指しています。

全体のコンセプト

私たちは、システムテスト工程において、システムテストの目的を達成するために、以下の方針を掲げています。

1. プロダクトリスクを洗い出し、重要機能の不具合流出を防止する
2. UXを重視する
3. 「仕様」と「UX」の両面からテストベースへフィードバック（FB）する

チームのテスト設計の強み・アピールポイント

私たちのチームは、チームの方針に応じて、3つの活動を進めました。

1. プロダクトリスクを洗い出し、重要機能の不具合流出を防止する
アプリ全体を対象に機能テスト（簡易的な確認）を実施しつつ、リスクの高い機能には機能テスト（重点的な確認）を行います。これにより、広くカバーしながら重要部分を深く検証するバランスの取れたテスト設計を実現します。

2. UXを重視する
ユーザーが使用する場面を想定した画面遷移図を活用した機能テスト（簡易的な確認）を実施します。非機能に対しては探索的テストを行い、UXに直結する問題の早期発見を目指します。

3. 「仕様」と「UX」の両面からテストベースへFB
仕様に対する確認とともにUX視点での改善提案を行い、テストベース自体の品質向上に寄与するフィードバックを実施しました。これにより、テスト設計の成果を開発プロセス全体の改善へつなげることを目指します。
上記より、アジリティを確保しつつ、システムテストの目標達成を目指します。

※ 全体でA4縦4ページに収まるように記述してください。

チームの戦略・方針

この項目では、チームの作業の進め方や成果物の特徴を、設問に従って記述します。他文書（審査対象の成果物など）への参照で記述しても構いません。

プロセスの説明

チームのテスト設計のプロセス（テスト要求分析・テスト詳細設計といったアクティビティと、テストケースといった成果物の関連性）の全体像を、モデル（PFDやアクティビティ図など）や文章で示してください

成果物0に記載しています。

テストベースからテストケースやテスト手順までのトレーサビリティをどのように確保しているか説明してください

私たちは、主にトレーサビリティを以下3点で確保しています。

1. テストベースへの改善FBのID付与

テストベースへの改善FBにIDを付与し、詳細設計の中の「FBの回答に応じて書き換える必要がある箇所」に対応するIDを記載しています。

これにより、開発者からの回答や仕様変更があった場合も、対象箇所を迷わず追跡できます。

2. テストアーキテクチャ設計での対象機能整理

テストアーキテクチャ設計では、各テスト構成ごとに確認対象の機能を整理しています。このため、仕様変更が発生しても、どの詳細設計を更新すべきか特定ができます。

3. 詳細設計の目的と確認方法のマトリクス

詳細設計では、テストの目的ごとに確認方法をマトリクス化しています。

仕様修正時には、このマトリクスから該当するテストケースを簡単に辿ることができます。

※ 全体でA4縦4ページに収まるように記述してください。

テストの構造の説明

採用したテストアーキテクチャが一般的なものより優れているポイントを記述してください

私たちのテストアーキテクチャでは、構成とプロセスの両面でアジリティと品質を両立できる点に優れています。

1. 構成

機能テスト（簡易的な確認）でシステム全体の基本動作を最小限のテストケースで確認します。プロダクトリスクが高い機能については機能テスト（簡易的な確認）のみでは不十分と判断し、機能テスト（重点的な確認）を追加し、重要箇所を集中的に検証します。また、非機能は探索的テストを取り入れることで、少ない準備工数で使用性や信頼性の課題を確認できる仕組みとしています。

2. プロセス

まずは機能テスト（簡易的な確認）を最初に通すことでハッピーパスを確認します。次に、機能テスト（重点的な確認）と非機能テストを並行して実施することで、両面の不具合を早期に検知します。最後に、再度機能テスト（簡易的な確認）を行うことで、修正を踏まえてシステム全体が正しく動くことを確認します。このプロセスにより、品質を保ちながら迅速にテストを進められる点が大きな強みとなっています。

テストベースに対する網羅性の確保（目的を満たすようにテストベースを網羅する）で、どのような工夫をしたか記述してください

以下の2つの工夫を行なっています。

1. マインドマップを用いた観点の整理

テスト要求分析の段階でマインドマップを作成し、機能・非機能の両面から漏れのないように観点を洗い出しました。

2. テストベースへの改善FB

完全性・一貫性・曖昧さといった観点を開発側に確認する仕様ベースのアプローチに加え、UX上期待される振る舞いを提案するUXベースのアプローチも取り入れました。これらのフィードバックは、テスト要求分析の段階だけでなく、テスト詳細設計やテスト実装の過程で気付いた内容も随時追加し、開発者へ共有します。これにより、テストベース自体の質を継続的に整え、手戻りの防止につなげています。

※ 全体でA4縦4ページに収まるように記述してください。

テストベースに対するピンポイント性の確保（無駄なテストを作らない）で、どのような工夫をしたか記述してください

以下の工夫を行い、リソースを最も重要な箇所に集中させています。

1. 重複テストの削除によるスコープ最適化

単体テストや統合テストで、すでに確認済みの基本的な動作の確認や画面遷移はシステムテストで重ねて手厚く検証する必要がないと判断しました。

これらは機能テスト（簡易的な確認）で十分にカバーできるため、機能テスト（重点的な確認）ではスコープ外とし、無駄なテストケースを作らないようにしています。

2. プロダクトリスクに基づく重点機能のピンポイント性

市場に不具合流出時の影響が多い3機能（ログイン、計算、結果登録）のみ、

機能テスト（簡易的な確認）に加えて、ピンポイントで機能テスト（重点的な確認）の対象としています。

活用した技法や手法の説明

以下のテスト設計技法のうち、今回使用したものを選択してください（記述内容のうち、使用した技法を残し、使用していないものを削除してください。各定義はJSTQBに従います）

シナリオテスト、状態遷移テスト、ドメイン分析、探索的テスト（セッションベースドテスト）

テスト設計についての既存の方法論（HAYST法、VSTeP、ゆもつよメソッドなど）や体系（ISO29119、STEPなど）で、今回使用したものがあれば記述してください

なし